

令和2年度 学校評価書

学校教育目標 「すすんで学び、よりよく生きる人を育てる」

めざす子ども ○心も体も元気な子ども ○生活する力のある子ども ○自分の思いや気持ちを伝える子ども

【評価】 保護者による評価 A：3点、B：2点、C：1点、D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと保護者最大51点）保護者17名

教員による評価 A：3点、B：2点、C：1点、D：0点として点数の合計による評価（質問項目ごと教員 最大33点）教員11名

達成度 A:達成できた（8割以上） B:ほぼ達成できた（6～7割） C:あまり達成できなかった（4～5割） D:達成できなかった（3割以下）

めざす学校	重点	評価項目	具体的方策・評価指標等	達成状況	達成度	課題と改善策
1 安全な学校	安心・安全な学校	(1) 新型コロナウイルス感染症防止対策として、日常生活の指導、健康管理、新しい生活様式を踏まえた環境整備を実践している。	・基本的感染防止対策の徹底（うがい、手洗い、マスク着用、換気、消毒等）	・感染防止対策マニュアルを作成し、教頭の指導や養護教諭の専門的な意見、事務部の協力的な対応で、安全な環境づくりができた。 ・手洗いやマスク着用、換気、消毒などを全教職員が徹底して取り組んだ。毎日の生活指導としてマスク着用、手洗い等を行い児童に習慣化してきている。 ・換気については寒い時期に工夫が必要だったが、常時換気のために上窓を開けることを徹底した。 ・性教育を新たに年間計画に入れて計画的に実施できた。 ・密回避のため、遊び場としてのギャラリー使用を割り当てた。	A	【健康・安全】<学部、生活部> ・交通安全指導について ➡今年度は臨時休業や三密回避のため校外学習が減ったが、交通安全指導について機会を捉えて継続して取り組む。 ・危機管理・津山小と安全面の連携について<生活部> ➡災害時の情報収集や役割分担の確認、アクションカードの活用等のシミュレーション研修に取り組む。
		(2) ヒヤリハットの集積や解決策の共通理解を通して、事故やいじめの未然防止を行っている。	・毎日の学習環境点検、通学時駐車場での安全確保、きめ細かな生活指導	・安全面について心配された点は職員間で情報を共有し、すぐに対策を講じて、安全に活動することができた。		
		(3) 津山小学校と合同の避難訓練、安全マニュアルに基づく職員研修等を実施し、緊急時の対応に備えている。	・避難訓練の実施 ・職員研修の実施	・緊急時対応の職員研修、避難訓練（単独1回、合同3回）を計画的に実施できた。 ・服薬、てんかん、食物アレルギーのマニュアルを作成し、緊急時対応について職員研修会を実施し周知できた。 ・災害避難時に使用するアクションカードを新たに作成・設置した。 ・防災教育や非常用備蓄の充実のため、個人用備蓄品を持参し個別に対応できるようにした。 ・福祉事業所からの要請に応じ、保護者了解の上、対象児童の給食指導の様子について情報を提供できた。		
		(4) 児童・保護者の相談や地域の学校等からの要請に応じて、関係機関と連携し特別支援コーディネーターと巡回相談員を窓口にして相談事業等に努めている。	・ケース会議・関係機関の連携			
		評価点集計 教員 (1)30点 (2)31点 (3)33点 (4)28点 教員 122/132 満点 92.4% 保護者 (1) (健康・安全：46点) 保護者 (6) (保護者との連絡：49点) 保 95点/102 満点 93.1%				
2 楽しい学校	一人一人に応じた指導・支援の充実	(5) 個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成・活用し、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	・作成・活用、毎日の授業記録と振り返り	・個別の指導計画作成に当たって、複数の目で点検し、より実態に合った目標や内容にした。また、児童について、学部会（月1回）や終礼（週2回）で共通理解し指導に当たった。	A	【個別の指導計画】<小学部、教務部> ・個別の指導計画の作成・活用について ➡評価グループ研を機能させ、複数による実態把握と評価を確実に実施する。 ➡評価研修会は、教務部がリードし早い時期に実施する。 【学習指導】<研修・相談部、教務部> ・国語・算数、体育、時間における自立活動について ➡指導力向上のために計画的に校内研修会を設ける。また、各自、文献や外部研修会への参加により専門性の向上に努める。 【研究・研修】<研修・相談部、教務部、小学部> ・校内研究について ➡研修・相談部が学校研究をリードし、授業研究会で得られたことを積み重ね、研究を一層深める。具体策として、事後研究会は三密を避けながらも全教員で協議する機会として必要である。研究課題を踏まえ外部助言者を招聘するなど検討する。 【学校間・地域・居住地校交流】<教務部、小学部> ・コロナ禍における取組について ➡交流学习については、新しい生活様式を踏まえた学校運営に基づき、活動内容や場面等を工夫し取り組む。 ➡津山小との学校間交流については、両校が協力し工夫しながら取り組む。
		(6) 集団生活の中で一人一人の力を発揮できるように指導・支援ができています。	・教育的ニーズ・実態の情報交換、実態や障がい特性に応じた学習内容と学習形態の検討と実践	・児童理解研修会（年度当初）で全児童について情報交換と共通理解をした。 ・ティームティーチングの良さを発揮し、互いに協力し指導に当たった。特に体育については、単元目標に基づき、個別目標や評価について全教員で意見交換し、指導に生かした。		
		(7) キャリア教育の視点から、経験の拡充を図り、生活年齢に合わせた体験的な学習に取り組んでいる。	・段階的・発展的に進める指導・支援	・身近自立に課題のある児童について丁寧に指導している。複数の児童について、日常生活の指導（食事や排せつ面等）で大きな成果が見られた。 ・保護者面談時に家庭生活（排せつ面、生活リズム等）について丁寧に聞き取り、養護教諭や学校医とも連携し、水分チェック表を活用する等、日常生活指導について理解と協力を得た。		
		(8) 授業研究会の計画的な取組や研修をととして学習指導の充実に努めている。	・計画的な授業研究会の実施と実践の積み上げ、事前・事後研究会での意見交換	・新型コロナ感染拡大の影響により東北特別支援教育山形大会は中止になったが、校内授業研究会の方法や時期を見直し計画的に進めた。授業研究会では目標設定や支援について学び合い、児童理解や授業改善に生かすことができた。 ・3密回避のために、教室内での授業参観人数を減らし、ビデオ視聴の時間を設定し、事後研究会では直接参加できない教員も意見を反映できた。 ・授業研究会後に研究通信を発行し、対象研究授業について成果と課題を全教員が確認できた。		
		(9) 学習指導要領に基づく目標設定や3観点による評価について研修を深め、授業改善に努めている。	実態把握と目標設定、3観点の評価と授業改善	・体育で3観点チェック表を作成し、3観点到に沿った目標を意識しながら取り組み、個別の指導計画に生かすことができた。 ・評価研修会（年1回）を実施できた。		
		(10) 津山小学校との交流や地域交流等をととして、人との関わり方や自分の思いを伝える力を育てている。	学校間交流、地域交流（施設・人材等資源の活用）	・コロナ対応で様々な制限のある中で、運動会を実施し交流できた。 ・大型商業施設での作品展示、読み聞かせの会など新たな取組を実践できた。 ・本校、分校児童とのとの手紙のやり取りや、津山小1年生、たんぼぼ学級との学習交流ができた。		
		(11) 学校生活において、児童の運動量、活動量を十分に確保している。	体育の充実、昼休みの活用、学校周辺の歩行等	・体育では運動量の確保に努めることができた。 ・体育や休み時間にグラウンドを活用し、教師も一緒に活動し運動量の確保に努めた。体を動かすことの楽しさを感じている児童が増えている。		

			評価点集計 教員(5)27点 (6)30点 (7)25点 (8)29点 (9)27点 (10)24点 (11)26点 教員188/231満点 81.3% 保護者(2)(成長:49点)保護者(3)(指導支援:48点)保護者(4)(体を動かす:47点)保護者(5)(交流:41点) 185点/204満点 90.6% 集計結果85.9%				
3	頼りになる学校	保護者や地域への情報発信	(12)教育相談の実施や地域の学校の授業研究会等での指導等、特別支援教育のセンター的機能を果たしている。 (13)地域の方との交流、地域回覧用の学校だよりの定期的な発行、学校紹介リーフレットの活用により、天童校の情報を発信している。	巡回相談員を窓口にし、他校授業研究会への指導・助言、外部教育相談	・巡回相談の実績は、市内特別支援学級の授業参観と指導・助言(2校)、児童の学習参観と個別相談(1校)。依頼数は新型コロナ感染拡大の影響で昨年度より減少。 ・可能な限り学習指導案を複数の教員で見合い、指導・助言内容を検討し臨むなど丁寧に対応した。	A	【センター的機能】<教務部、小学部、巡回相談員> ・専門性の充実について ➡他校授業研への参加、外部研修会を通して、自ら学び専門性を高める。
			評価点集計 教員(12)30点 (13)32点 教員64/66満点 96.9% 保護者(7)(地域への発信:48点)保護者(8)(学校からの情報:48点)保96点/102満点 94.1%				【地域交流・情報発信】<学部、教務、教頭> ・新型コロナ感染への対応 ➡県の警戒レベル等に応じ、実施時期や方法を工夫し実施。間接的な交流や情報発信については継続する。
4	働きやすさやさらさらがらの学校		(14)会議や打合せの精選・適切な時間設定により、授業の準備や教材研究、研修等の時間の確保に努めている。また、在校等勤務時間管理を行い、より良い働き方に努めている。 (15)全職員で情報を共有し、課題解決に向けて取り組んでいる。	一人一人の働き方改革の意識向上、計画的・効率的な業務の進め方	・冬季休業が短縮されたため教室整理や学級事務の時間がとれなかった。 ・会議や研修会の時間設定について再調整が必要だった。 ・「働き方改革」については、在校等時間表への記入により自己管理ができています。しかし、超過勤務時間がなくなる現実を踏まえ、一層の取組が必要である。	A	・地域の福祉情報・進路情報について ➡窓口を決めて、情報を提供する。担任は保護者との連絡や報告に努める。
			評価点集計 教員(14)28点 (15)26点 54点/66満点 81.8%				【働きやすさ、協働】<教務・全体> ・長期休業前の環境整備や学級事務の時間の確保について ➡短縮日課による時間の確保を検討、会議の設定を工夫 ・個人に重複する業務の調整について ➡担当者の早目の計画立案、教材作成等の協力態勢、全体調整